

他者との関係を織り成す教育方法の探求

Keywords: 教育方法、教育課程(カリキュラム)、生活綴方、インクルーシブ教育

● 研究概要

教育方法を「他者に対する働きかけ」として定位し、その在り方を史的に検討しています。教師が相対する「他者」がどのような存在なのかの考察は、他者の尊重に繋がります。また、自分とは違う他者への「働きかけ」の考察は、働きかけがもつ危うさへの自覚に繋がります。こうした課題意識のもとで、「他者」との繋がり＝人間関係を織り成す教育方法を探求しています。



所属 教養・基礎教育部門
助教

氏名 松本 圭朗
MATSUMOTO Yoshiro

● 研究テーマ

・勝田守一の教育学構想における教育方法の検討

戦後期の教育学に大きな影響を与え、今なお、その評価をめぐる議論が続いている教育学者・勝田守一を対象とした研究をしています。とくに、彼の教育学構想における教育方法論——教科指導・生活指導・教育課程——の在り方を検討しています。

彼の教育学構想に通底する思想を明らかにすることで、他者との関係を織り成す教育方法の思想的基盤の描出を試みています。

・「人間関係」に着目した戦後教育実践の検討

子どもたちの「人間関係」に着目した教育方法の1つに生活綴方があります。端的に言えば、子どもの作文をもとにした教育実践です。生活綴方教育実践に取り組んだ教師は、子どもが自身の生活を書き綴った作文を中核にして、子どもの人間関係を構築していきます。生活綴方教育実践に取り組んだ教師たちの具体的な実践方法、そして、その背景にある教育思想を検討しています。

彼らの教育方法とその思想的共通性を明らかにすることで、他者との関係を織り成す教育方法の具体的な在り方の描出を試みています。

・北陸三県(富山県・石川県・福井県)の生活綴方教育の検討

富山県・石川県・福井県という北陸三県における生活綴方教育実践の実相を検討しています。この地では、小沢正巳や勝尾金弥といった児童文学に造詣の深い人物たちが、教師として活躍し、そこで生活綴方教育に取り組んでいました。

彼らの教育実践を明らかにすることで、北陸三県の生活綴方実践の特質を詳らかにするだけでなく、北陸三県の地域史や地域文学に関する知見を得ることを試みています。

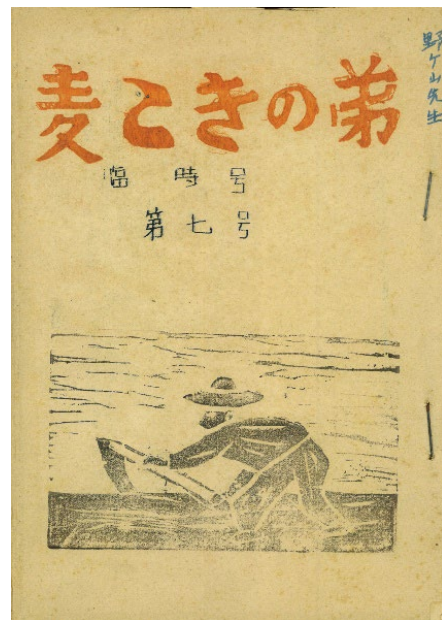


図1:
生活綴方教育実践に取り組んだ教師・会田実が発行していた学級文集

● 論文・著書等

【論文】

1. 松本圭朗(2020)「勝田守一における生活指導概念の史的展開に関する一考察」『教育方法学会研究』45巻、73-83頁
2. 松本圭朗(2025)「勝田守一の教科指導概念における学習指導と教授のあり方」『教育方法学会研究』50巻、61-71頁
3. 松本圭朗(2025)「勝田守一における幼児教育論の基本的視座」『保育学研究』63巻1号、55-66頁